

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870102153
法人名	有限会社 イヨメディカル
事業所名	グループホームみゆき
所在地	松山市御幸2丁目8-16
自己評価作成日	平成 22 年 11 月 5 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成22年12月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

① 利用者に対しては、“笑顔”で優しく接し、各利用者の要望・希望及び思い等を早く察知して、適切に対処することです。  
 ② 利用者を散歩や買物等、天気が悪い日以外は、外出を日課としており、その時に出会う近所や町内の人達に、挨拶と簡単な言葉を交わすことです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

3ユニットのうちの1ユニットは築50年の日本家屋を改修しており、庭にある垣根や入り口は周囲の雰囲気や溶け込み、懐かしさを感じさせる造りとなっている。事業所の玄関には季節の花が色鮮やかに植えられており、来訪者を明るく出迎えてくれる。地域との結びつきや利用者の機能維持にも繋がっている。職員は「笑顔」を心掛け、家族的ケアを大切にしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 有限会社 イヨメディカル

(ユニット名) グループホームみゆき

記入者(管理者)

氏名 青木 正知子

評価完了日 平成 22 年 11 月 5 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 事業所独自の理念を「家訓」としてサービスの方針とし、全職員で再確認し、実践に努めている。	
			(外部評価) 法人で掲げている家訓を軸として、毎年、事業所の方針や目標を定め1年経過した時点で反省を行い、翌年の目標へと繋げている。目標は分かりやすく達成可能なものに絞られている。毎月行われるリーダー会やスタッフ会でも目標について話し合いをし、職員全員で共有している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 外出時など、近所の方に出会う時には、必ず挨拶を行い、顔見知りになり会話するなど、優しく接している。	
			(外部評価) 散歩等で地域の方とは顔見知りになっており、友好的に関わっている。町内会は協力的で運営推進会議を通じて災害時の協力体制も築けており、積極的に交流が図れている。近くにある大学や市社協のボランティア受け入れも行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 微力ですが、社員一同で取り組んでいます。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に1回開催し、ホームの状況や取り組み等の報告・意見交換等を行っている。 情報や意見等は、早急に検討・サービス向上に活かすよう努めている。	
			(外部評価) 近隣に高齢者見守り員や自主防災の訓練員の方が住んでおり、運営推進会議にも参加してもらっている。多種多様な立場の方に働きかけもしており、納涼祭や避難訓練、家族会、医師を講師に招いての勉強会などの行事を活用しながら開催している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 研修会に於いて同席し、共に取り組んでいる。 市職員の実習を受け入れている。	
			(外部評価) 生活福祉・身体障害・高齢福祉など、様々な分野で市との連携は密に行われている。また、市職員の実習受け入れも数年にわたり行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 講習や研修で学んだ事を生かせるよう、ミーティング等議題に取り入れなどし、身体拘束についての理解を深めケアしている。	
			(外部評価) 新人職員は先輩職員の姿勢からも身体拘束を行わないケアを学ぶ事ができている。職員は穏やかな声かけに配慮し、安全の確保から必要最低限の範囲で、玄関施錠は行っているが、その人らしい自由な暮らしを支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 全職員、言葉や行動を常に見直し、虐待行為について行われるべきではないと理解できており、防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在は、制度の活用を必要としている利用者はいないが、ミーティングで勉強しています。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約・解約の際には、利用者やその家族に必ず十分な説明を行い、理解を得た上でやっている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 管理者・副管理者・ユニットリーダー・担当者と窓口を多く設け、状況の報告や説明の上、意見・要望を検討し、運営に反映させている。	
			(外部評価) 気さくに話しができる雰囲気づくりを心掛け、面会の際には職員から声かけを必ず行なっている。些細な意見や感想でも家族から聞いた言葉は大切に、会議で伝達したり申し送りノートを用いて各ユニットへ傳達するなど、職員間で情報共有を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 主に月1回のユニットミーティング・リーダー会等で実施されている。  (外部評価) 月1回行われるリーダー会に管理者も必ず参加している。日々の業務の中で職員から出た意見や要望は、ユニットリーダーから副管理者や管理者へ伝えられ、検討した結果を職員にも報告している。定年退職した元職員がボランティアで毎日のように訪問し、職員の良き相談役となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 研修や勉強会の参加、役職の起用、特別手当及び昇給等で感じられる。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修・講習へ参加した職員には、ミーティングで情報交換できる場面を設けている。又、研修の案内の掲示等を行い、職員のレベルアップを支援している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 研修会や勉強会を通じて、少しずつ図れている。	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 本人との会話する時間を設け、希望や不安な事に対して傾聴に努めている。又、時には納得して頂くよう対応している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入所時に、希望・要望等傾聴し、馴染み安心して相談して頂けるよう雰囲気を作り、速やかに対応できるよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人・家族の求めている事を職員の間で共有し、実行を遅らせないよう対応している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 敬老の精神をもって相対し、尚且つ教えて頂き、本人の力を発揮できる場面作りに配慮し、共に暮らす関係を大切にしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 電話連絡時、近況をお伝えし、ハガキを送る際には、本人の写真を貼るなどし、生活の中での表情を見て頂き、共に支えていく関係作りに努めている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 会話の中に、昔話や出生地等の話題を入れ、本人が得意とされていることは、実施場面を作るように努め、思いや関係が途切れないように支援している。  (外部評価) 2週間に1回、美容師の訪問があり希望する利用者は利用している。日帰り旅行に合わせて、墓参りや、遠方の親族に会いに行くなど個別の対応をしている。介護タクシーを活用したり、家族へ働きかけて外出を促すなど、積極的に関係が途切れない支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) レクリエーションでは、なるべく利用者全員が参加できるものを考え、関わって頂き、それぞれの相性を把握し、席の並びに配慮している。時に間に入り、フォローし支え合えるよう努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 契約終了後、更に関わりが必要な方がいない。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者との日々の会話や表情で得たことを職員の間で情報を共有し、思いや意向の検討・実行に努めている。  (外部評価) 利用者との何気ない会話や関わりの中で知り得た希望や意向を申し送りノートに記録し、職員全員が情報を共有できるように工夫している。意思表示が困難な場合でも、表情や様子から察知できるよう、注意を払っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 利用者との日々の関わりや、家族又は職員間での情報交換や伝達等で把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々の関わりの中で、本人の訴えの他に、職員各自の気づきを申し送り等で把握に努めている。	



自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアの あり方について、本人、家族、必要な関係 者と話し合い、それぞれの意見やアイディ アを反映し、現状に即した介護計画を作成 している	(自己評価) 毎月、ミーティング時にカンファレンスを行い、意見 交換して介護計画を作成し、見直ししている。 利用者・家族へ説明の上、承認を得ている。	
			(外部評価) 面会時等に家族の意向を確認し、担当者を中心にユ ニットの職員全員で話し合いながら介護計画を作成し ている。毎月行われるカンファレンスには管理者も参 加している。6か月に1回は計画を作成し直し、利用 者の状況に応じたケアが提供できるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや 工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を 共有しながら実践や介護計画の見直しに活 かしている	(自己評価) 介護計画の期間に応じて、評価・見直しは行ってい る。 個別に日常生活を記録し、ユニット全職員一読し、別 紙へ申し送りとして情報の共有に活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機 能化 本人や家族の状況、その時々にもまれる ニーズに対応して、既存のサービスに捉わ れない、柔軟な支援やサービスの多機能化 に取り組んでいる	(自己評価) 要望に対応できるよう努めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源 を把握し、本人が心身の力を発揮しながら 安全で豊かな暮らしを楽しむことができる よう支援している	(自己評価) 運営推進会議に民生委員や町内会長さんの出席が得ら れて、理解を深めて頂いております。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 納得を得られたかかりつけ医と連携し、利用者及び家 族の希望に沿って支援している。 2週間に1回の往診、また、異変時には即座に連絡・ 対応できる体制を築いている。  (外部評価) 利用者や家族の希望する医療機関を受診できるよう支 援を行っている。協力医療機関の往診が2週間に1回 あり健康管理に留意している。急変時に備え協力医療 機関とは24時間連携がとれる体制が築かれている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 早期発見につながるよう日々の関わりから表情や異変 に気づき、早期治療の為、全職員・看護職員に伝達・ 相談し、日常の健康管理・医療活用の支援をしてい る。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 利用者に対して、協働及び連携は図れている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 利用者また家族の気持ちを優先し対応するよう努めて いる。 ミーティングにおいて、施設長より方針についての話 し合いがあり、職員は理解できている。  (外部評価) ターミナルケアのマニュアルが作成されており、入居 時に家族に説明し同意書を得ている。外部の研修にと どまらず事業所内の研修も行い、話し合いを重ねて重 度化に向けた支援に取り組んでいる。	医師を運営推進会議の講師に招き、具体的な例をあげ て勉強するなど、重度化に向けての取り組みが進みつ つあるが、事業所で支援できること、できないことを 明確にしターミナルケアにおける職員の意識の統一を 図る取り組みに期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 火災訓練後に「AED」の救命講習を入れるなど、消防署等の協力を得て実施している。又、事務所内の看護師により、応急手当等をマニュアル化している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防署が近く、積極的及び具体的に協力して頂いている。年2回の防災訓練では、消防署・自治会の協力を得られており、協力体制は築けている。  (外部評価) 消防署や地域の自主防災組織、近隣住民の協力を得ながら避難訓練を年に2回実施している。夜間フリーで対応できる職員を一名増員し、安全確保に努めている。近隣住民が迅速に集結できるよう、事業所にサイレンの設置が予定されており、しっかりとした協力体制を築いている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 個人情報の保護に対する意識をミーティング等、職員同士で確認し合うよう努めている。利用者一人ひとりのプライドやプライバシーを尊重し、言葉掛けには注意している。  (外部評価) 利用者の尊厳やプライドを傷つけないような声かけや接し方に心掛け、個人の思いを大切にケアに取り組んでいる。年間の目標にも具体的に掲げ、ミーティングで繰り返し振り返りなど、職員の意識付けを徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 職員の思い込み「……だろう」ではなく、利用者の選択・説明・言葉掛けなど表情なども含め、自己決定までの時間を大切にしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 職員で過ごし方の方案を出してみたり、又、利用者からの希望を声に出して頂けるような雰囲気作りに努めている。 一日の生活を柔軟に過ごして頂けるよう支援しています。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 古くなった衣類は、家族へ相談し、本人と買物へ行くなど、新しいものを購入している。 定期的に訪問美容を利用したり、外出を兼ねて美容室へ出かけている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者の希望や好みに応じて献立作りをしている。 又、利用者の得意な調理は、力を活かして頂いており、職員と食事・片付けを行っている。  (外部評価) 基本的なメニューは3ユニットで統一されているが、買い物や調理については、それぞれで行われている。 日頃から利用者の嗜好を把握し、誕生日には希望のメニューにするなど楽しく食事できるよう取り組んでいる。また、調理や後片付けなど、できる範囲で無理のないよう職員と一緒にやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 一汁三菜を基本とし、果物などでも水分をとれるよう工夫している。体重の増減では、好き嫌いで栄養がかたよらないよう、調理や食器で見た目を変えるなどしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 口腔ケアの大切さを理解し、義歯の手入れする手順を洗面所などに貼り出している。 毎食後、一人ひとりの力に応じた支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人ひとりの排泄状況を把握し、着用しているものを変えてみるのではなく、食後の声掛けや体操前のトイレ誘導を行い、スムーズな排泄ができるよう支援している。	
			(外部評価) 日中は可能な限りトイレ誘導を行い、夜間はポータブルトイレを使用するなど利用者の状況に合わせて個々に対応している。利用者の表情や様子を察知し、さりげない声かけを行い羞恥心に配慮しながら自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排便コントロールをスムーズにできるだけして頂くため、デザートに繊維質の多い寒天やイモ類を多く献立に取り入れたり、牛乳飲用や腹部マッサージ方法を行っている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 職員配置の問題もあり、曜日・時間帯は、ほぼ決まっているが、利用者の具体的な希望を聞き、安全に楽しい入浴時間になるよう努めている。	
			(外部評価) 基本は週に2回程度、午後に入浴している。夏場は毎日シャワーを希望する利用者もおり、個別の希望に応じて時間や回数など柔軟に実施している。1人の職員が1人の利用者に対して着替えの準備から入浴介助、髪を乾かすまでの一連の行為を支援しており、安心感が持てるように精神面に配慮した対応がされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 体力的にも昼夜逆転を防ぐために、日中レクリエーションをしたり、気候が良い時には、散歩へ行くなど努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 職員は医療ノートにより、一人ひとりが使用している薬についての情報を理解・共有し、利用者の力に応じて支援し、呑みきるまで見守り、確認している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの力を発揮できる場面を作り、掃除・洗濯たたみ・調理・新聞折り・食器洗い等、個々に対応している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 利用者の個々の希望に応じ、買物に出ている。家族の協力により、お墓参りや買物に個別に出られている。	
			(外部評価) 散歩は日課になっており少人数ずつ散歩の支援を行っている。ほとんどの利用者が毎日外出している。家族との外食や、職員との買物など一人ひとりの楽しみに合わせた外出支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 利用者のお金は、事務所で管理している。買物に出た際は、支払等をお願いし、支援している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者の希望に応じて、電話・手紙のやりとり等を行っている。イベント後には、利用者本人の写真を貼り、近況報告のハガキを書くこともある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 壁の飾り付けや季節の花を飾る際、環境の変化で生活の混乱を招かないよう、利用者と一緒にやっている。気温や臭いにも配慮している。	
			(外部評価) 玄関前には季節の花が植えられ、来訪者を明るく出迎えてくれる。食事時にはテレビを消し、音楽を流すなど、落ち着いた雰囲気づくりがされている。古民家改修のユニットは、垣根や藤棚のある庭、木の床など、懐かしさを感じ、居心地の良く暮らせる工夫がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 花の雑誌をお持ちの利用者の居室へ、花の好きな方が訪室し共に見るなど、自由に場所を移動して頂いている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 馴染みの家具・衣類・仏壇など自由に持ち込んで頂き、本人の好みの部屋となるよう工夫している。	
			(外部評価) 馴染みの家具や趣味のカラオケ機材、仏壇等が持ち込まれ、個性のある過ごしやすい居室となっている。カーテンやUVネットで陽射し調節を行うなど気遣いを感じられ、居心地のよい住環境が築かれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 居室内の家具は、なるべく本人の背丈くらいのものを選び、更衣など自分の力を活かして頂けるよう支援している。 トイレ・廊下には手摺を設置している。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870102153
法人名	有限会社 イヨメディカル
事業所名	グループホームみゆき 1F
所在地	松山市御幸2丁目8-16
自己評価作成日	平成 22 年 11 月 5 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成22年12月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

① 利用者に対しては、“笑顔”で優しく接し、各利用者の要望・希望及び思い等を早く察知して、適切に対処することです。  
 ② 利用者を散歩や買物等、天気が悪い日以外は、外出を日課としており、その時に出会う近所や町内の人達に、挨拶と簡単な言葉を交わすことです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

3ユニットのうちの1ユニットは築50年の日本家屋を改修しており、庭にある垣根や入り口は周囲の雰囲気と溶け込み、懐かしさを感じさせる造りとなっている。事業所の玄関には季節の花が色鮮やかに植えられており、来訪者を明るく出迎えてくれる。地域との結びつきや利用者の機能維持にも繋がっている。職員は「笑顔」を心掛け、家族的ケアを大切にしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		



(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 有限会社 イヨメディカル

(ユニット名) グループホームみゆき 1F

記入者(管理者)

氏名 青木 正知子

評価完了日

平成 22 年 11 月 5 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 事業所独自の理念を「家訓」として、サービスの核としている。 『やさしい介護』を基本とし、ミーティング等で話題に上げる等徹底に努めている。</p> <p>(外部評価) 法人で掲げている家訓を軸として、毎年、事業所の方針や目標を定め1年経過した時点で反省を行い、翌年の目標へと繋げている。目標は分かりやすく達成可能なものに絞られている。毎月行われるリーダー会やスタッフ会でも目標について話し合いをし、職員全員で共有している。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 近隣の神社・仏閣等への散歩中、近所の方とお会いした際には、必ず挨拶を交し合う。 買物等日常生活時には、声掛け等親しみをもって交流しています。</p> <p>(外部評価) 散歩等で地域の方とは顔見知りになっており、友好的に関わっている。町内会は協力的で運営推進会議を通じて災害時の協力体制も築けており、積極的に交流が図れている。近くにある大学や市社協のボランティア受け入れも行っている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 「AED」を設置し、地域の方にも使用できるように掲示している。 運営推進会議では、ホームの状況、取り組み及び行事等を報告しており、少しずつご理解をいただいている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 2ヶ月に1回運営推進会議を開催している。状況、行事報告及び研修報告等行い、意見交換も行われている。 参加者の意見を真摯に受け止め、サービスの向上に努めている。お蔭様で信用が厚いです。	
			(外部評価) 近隣に高齢者見守り員や自主防災の訓練員の方が住んでおり、運営推進会議にも参加してもらっている。多種多様な立場の方に働きかけもしており、納涼祭や避難訓練、家族会、医師を講師に招いての勉強会などの行事を活用しながら開催している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議等でケアの実践を把握し、市町村の担当者や担当職員と連携している。 また、日頃の取組みを報告し、専門的立場から意見を頂き、質の向上に努めている。	
			(外部評価) 生活福祉・身体障害・高齢福祉など、様々な分野で市との連携は密に行われている。また、市職員の実習受け入れも数年にわたり行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 職員全体で拘束をしないケアに努めている。 利用者の身体状況・生活を十分に観察し、拘束をしないケアを実施している。 やむを得ない場合は、十分に説明し、同意書を頂いている。	
			(外部評価) 新人職員は先輩職員の姿勢からも身体拘束を行わないケアを学ぶ事ができている。職員は穏やかな声かけに配慮し、安全の確保から必要最低限の範囲で、玄関施錠は行っているが、その人らしい自由な暮らしを支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 日々の関わりの中で、言葉遣いにも注意している。言葉による拘束も虐待の一部だと、職員全体が認識している。 ミーティング等において、職員への虐待防止の意識向上を図り、虐待防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在、財産管理・運用に対する問題のある方はおられないが、必要に応じ資料による説明を準備している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 担当ケアマネジャー・施設長と十分な話し合いをもち助言を受けながら、重要事項説明書にて説明し、入居の検討をして頂いている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ご家族来訪時や電話にて、日常の様子をお話しし、意見・要望をお伺いしている。 意見箱を設置し、サービス改善に努めている。  (外部評価) 気さくに話しができる雰囲気づくりを心掛け、面会の際には職員から声かけを必ず行なっている。些細な意見や感想でも家族から聞いた言葉は大切に、会議で伝達したり申し送りノートを用いて各ユニットへ通達するなど、職員間で情報共有を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 職員研修・月1回のリーダー会・月1回のミーティング等に於いて、意見交換を行っている。  (外部評価) 月1回行われるリーダー会に管理者も必ず参加している。日々の業務の中で職員から出た意見や要望は、ユニットリーダーから副管理者や管理者へ伝えられ、検討した結果を職員にも報告している。定年退職した元職員がボランティアで毎日のように訪問し、職員の良き相談役となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員が出席するミーティング等に出席し、意見交換の機会を作っている。 また、ホームへ訪問し、職員個々の意見も積極的に聞いている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 職員一人ひとりの目標を理解し、個々のケアレベルの把握に努めている。 また、研修等への参加も積極的に進めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 研修会や勉強会を通じて交流を図り、意見交換し、サービスの質の向上に努めている。	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居時、利用者様と十分な時間をかけ面接し、相談内容を聞いて対応する努力をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居相談時より、ご家族でホームを見学して頂き、生活の場であることを理解して頂き、利用して頂く、時間をかけて聞く機会を作り、信頼関係を構築している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ご本人・ご家族の意見を十分伺い、ケアマネージャーとも話し合いを持ち検討している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 「人生の先輩」としての関係を持つよう心掛けている。 調理面・生活面でも利用者様と共に行い、教えて頂いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時には、ホームでの生活状況・健康状態・金銭管理等の報告を行い、同じ目線で寄り添うよう関係を大切にしている。 本人の日常を良く知って頂くために、写真同封の書簡等、定期的に郵送している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 個別的な場所に関しては、ご家族の協力を得られるよう声掛けをしている。 行事等催す際は、手紙等で連絡し、参加して頂けるよう継続の支援に努めている。  (外部評価) 2週間に1回、美容師の訪問があり希望する利用者は利用している。日帰り旅行に合わせて、墓参りや、遠方の親族に会いに行くなど個別の対応をしている。介護タクシーを活用したり、家族へ働きかけて外出を促すなど、積極的に関係が途切れない支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者それぞれの個性を尊重しながらも、皆が良い関わりができるよう気配り、レクリエーション・日常生活等でのきっかけづくり等に配慮している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所後も必要により関係を継続できるよう相談等できるよう支援している。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) アセスメントを行い把握している。 また、ご本人・家族とコミュニケーションを取りながら思いを察知するよう努めている。  (外部評価) 利用者との何気ない会話や関わりの中で知り得た希望や意向を申し送りノートに記録し、職員全員が情報を共有できるように工夫している。意思表示が困難な場合でも、表情や様子から察知できるよう、注意を払っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時にご家族より生活歴等お聞きし、把握に努めている。 また、日々の関わりの中で得た情報を、職員全員が周知できるよう徹底している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 突然に心身状況が変化することがあることを認識し、職員各自の気づきを大切にしている。 また、共有することで、一人ひとりの現状把握に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 毎日の気づきを職員間で申し送りし、ケアプランに連動できるようにしている。 本人・家族の意見も伺い、現状に即した介護計画を作成し、家族に説明の上承認を得ている。  (外部評価) 面会時等に家族の意向を確認し、担当者を中心にユニットの職員全員で話し合いながら介護計画を作成している。毎月行われるカンファレンスには管理者も参加している。6か月に1回は計画を作成し直し、利用者の状況に応じたケアが提供できるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 利用者一人ひとりの日々の様子や変化・ケアの実践・結果・気づきを個別ケース記録に具体的に記録し、職員間で情報を共有しながら実践している。 状態変化があれば、随時見直しをしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 小さな事でも遠慮なく意見してもらええる雰囲気作りに努め、多くのニーズに対応できるようにしている。 職員間での話し合いを中心に施設長のアドバイスを受けながら、出来るだけ早く実施するよう心掛けている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 運営推進委員会他、外部からの意見を積極的に取り入れ、適切な資源が活用できるようにしている。	



自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 本人及び家族の希望を大切にし、協力医療機関だけ ではなく、入居前からのかかりつけ医にも積極的に連絡 を取り、受診できるよう支援している。  (外部評価) 利用者や家族の希望する医療機関を受診できるよう支 援を行っている。協力医療機関の往診が2週間に1回 あり健康管理に留意している。急変時に備え協力医療 機関とは24時間連携がとれる体制が築かれている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 職場内の看護職員との連携を取り、日々の生活の中 での気づきを報告している。 また、24時間医療連携も可能な支援をしている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院加療中も主治医と連携し、早期退院に向けて話し 合い、また、退院後の療養計画やホーム入居復帰につ いて、家族・本人とも相談し支援している。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 契約時に説明を行い、意向を伺っている。 また、体調の変化にとまらぬ、その都度本人・家族と 十分話し合い、説明をしながら方針の共有をしてい る。  (外部評価) ターミナルケアのマニュアルが作成されており、入居 時に家族に説明し同意書を得ている。外部の研修にと どまらず事業所内の研修も行い、話し合いを重ねて重 度化に向けた支援に取り組んでいる。	医師を運営推進会議の講師に招き、具体的な例をあげ て勉強するなど、重度化に向けての取り組みが進みつ つあるが、事業所で支援できること、できないことを 明確にしターミナルケアにおける職員の意識の統一を 図る取り組みに期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急時対応マニュアルを作成し、職員間で徹底している。 「AED」を設置し、講習を受け、対応できるようにしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 職員各自が、マニュアルの再確認をしている。 消防署が近く、協力依頼を行い、具体的に協力頂いている。 定期的に避難訓練を実践している。  (外部評価) 消防署や地域の自主防災組織、近隣住民の協力を得ながら避難訓練を年に2回実施している。夜間フリーで対応できる職員を一名増員し、安全確保に努めている。近隣住民が迅速に集結できるよう、事業所にサイレンの設置が予定されており、しっかりとした協力体制を築いている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 個々の場所や時間・希望を尊重する声掛けやケアに心掛けている。 特に、排泄・入浴に関しては、個々の希望に配慮している。  (外部評価) 利用者の尊厳やプライドを傷つけないような声かけや接し方に心掛け、個人の思いを大切にケアに取り組んでいる。年間の目標にも具体的に掲げ、ミーティングで繰り返し振り返るなど、職員の意識付けを徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日頃より利用者の思いを理解するよう心掛けて関わっている。 自己判断が困難な方には、意欲の一端が見えた時を大切に、支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 日常生活動作に応じて、一人ひとりのペースで、利用者の動き・希望に合うように支援をしている。 一人ひとりに寄り添ったケアを心掛けている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 衣服の着替えについては、利用者と共に確認を取りながら、フォローしている。 定期的に訪問美容を利用したり、希望によっては、美容室への便宜を図っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 日常より、利用者の食の好みの聞き取りをした上で、献立作りをし、下ごしらえ・片付けを職員と共に実施している。 食事は、同じテーブルで一緒に取っている。  (外部評価) 基本的なメニューは3ユニットで統一されているが、買い物や調理については、それぞれで行われている。 日頃から利用者の嗜好を把握し、誕生日には希望のメニューにするなど楽しく食事できるよう取り組んでいる。また、調理や後片付けなど、できる範囲で無理のないよう職員と一緒にやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 毎月1回の体重測定により、状態を把握している。 また、毎日のバイタルチェックにて、個々の状況を把握し、特に水分摂取には注意を払い、随時声掛けを行っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 口腔ケアの大切さを十分理解し、毎食後、見守り・声掛け・介助にて口腔ケアを実施している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 利用者の排泄の時間帯、また、パターンを把握し、布パンツ・リハビリパンツ・紙おむつ・パットの組み合わせを考え、羞恥心に配慮し、支援を行っている。 自力排泄を目指している。	
			(外部評価) 日中は可能な限りトイレ誘導を行い、夜間はポータブルトイレを使用するなど利用者の状況に合わせて個々に対応している。利用者の表情や様子を察知し、さりげない声かけを行い羞恥心に配慮しながら自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 利用者が服用している内服薬を、体調にあわせてコントロールしたり、食事や水分補給に気をつけている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 希望に応じた入浴を基本とし、入浴が楽しい時間になるよう心掛けている。 また、気分を変えて、他ユニットの浴室を利用する事もある。	
			(外部評価) 基本は週に2回程度、午後に入浴している。夏場は毎日シャワーを希望する利用者もおり、個別の希望に応じて時間や回数など柔軟に実施している。1人の職員が1人の利用者に対して着替えの準備から入浴介助、髪を乾かすまでの一連の行為を支援しており、安心感が持てるように精神面に配慮した対応がされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 利用者の日常の体調や生活リズムを整える事で、安眠・不眠・不穏の支援を行っている。 また、個人の時間を大切に、居室で過ごして頂いている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 受診時の医師の指示、内服薬の内容を把握するようにしている。 また、状態の変化に気をつけ、日頃と違う状況であれば、看護師に相談している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの好みや力に応じて、力を発揮できる場面を作っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 体調・天気の良い日は、ホーム周辺を散歩し、地域の方々とふれあう機会を作っている。 また、ご家族の協力のもと、外出される利用者や職員と共に、買物等に出られたりする。  (外部評価) 散歩は日課になっており少人数ずつ散歩の支援を行っている。ほとんどの利用者が毎日外出している。家族との外食や、職員との買物など一人ひとりの楽しみに合わせた外出支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 金銭は、事務所に預けているが、使いたい時に使えるようにしている。 小遣い帳を活用し、収支の把握や計算ができるようにしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者の希望に応じ、随時電話をかけられるような環境作りをしている。 また、職員と共に定期的に手紙を書き、ご家族に送ったりしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 職員手作りの壁飾りで楽しんで頂いたり、季節を感じられる花や果物等を飾ったりしている。 夜間、職員を呼ぶ場合は、鈴やタンバリン等を使用し、刺激がないよう配慮している。	
			(外部評価) 玄関前には季節の花が植えられ、来訪者を明るく出迎えてくれる。食事時にはテレビを消し、音楽を流すなど、落ち着いた雰囲気づくりがされている。古民家改修のユニットは、垣根や藤棚のある庭、木の床など、懐かしさを感じ、居心地の良く暮らせる工夫がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 共有の場所でも、色々な場所で休めるようにしている。 また、廊下には、椅子をランダムに配置し、思い思いの場所でくつろいで頂いている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入居時に愛用されている物や、馴染みの家具・衣類・小物・仏壇等を自由に持ち込んで頂いている。 ご家族の写真や趣味の物等で、ゆったりとした空間を過ごして頂いている。	
			(外部評価) 馴染みの家具や趣味のカラオケ機材、仏壇等が持ち込まれ、個性のある過ごしやすい居室となっている。 カーテンやUVネットで陽射し調節を行うなど気遣いが感じられ、居心地のよい住環境が築かれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) できる事・できない事の見極めをし、利用者ごとに職員全員で把握し、場面作り・見守りのケアの中で、洗濯物たたみや食事の準備等積極的にされ、自信につながっている。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870102153
法人名	有限会社 イヨメディカル
事業所名	グループホームみゆき 2F
所在地	松山市御幸2丁目8-16
自己評価作成日	平成 22 年 11 月 5 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成22年12月2日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

① 利用者に対しては、“笑顔”で優しく接し、各利用者の要望・希望及び思い等を早く察知して、適切に対処することです。  
 ② 利用者を散歩や買物等、天気が悪い日以外は、外出を日課としており、その時に出会う近所や町内の人達に、挨拶と簡単な言葉を交わすことです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

3ユニットのうちの1ユニットは築50年の日本家屋を改修しており、庭にある垣根や入り口は周囲の雰囲気や溶け込み、懐かしさを感じさせる造りとなっている。事業所の玄関には季節の花が色鮮やかに植えられており、来訪者を明るく出迎えてくれる。地域との結びつきや利用者の機能維持にも繋がっている。職員は「笑顔」を心掛け、家族的ケアを大切にしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

I.理念に基づく運営

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 有限会社 イヨメディカル

(ユニット名) グループホームみゆき 2F

記入者(管理者)

氏名 青木 正知子

評価完了日 平成 22 年 11 月 5 日



(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 会議室及びスタッフルームなど要所に掲示し、職員への自覚に努めている。	
			(外部評価) 法人で掲げている家訓を軸として、毎年、事業所の方針や目標を定め1年経過した時点で反省を行い、翌年の目標へと繋げている。目標は分かりやすく達成可能なものに絞られている。毎月行われるリーダー会やスタッフ会でも目標について話し合いをし、職員全員で共有している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 天候の良い日は散歩をし、近所の方々と顔見知りになり、親しくなっている。	
			(外部評価) 散歩等で地域の方とは顔見知りになっており、友好的に関わっている。町内会は協力的で運営推進会議を通じて災害時の協力体制も築けており、積極的に交流が図れている。近くにある大学や市社協のボランティア受け入れも行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 微力ですが、会社及び社員一同で取り組んでいます。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 再確認をすると共に、新たな意見等を有効に活用しています。	
			(外部評価) 近隣に高齢者見守り員や自主防災の訓練員の方が住んでおり、運営推進会議にも参加してもらっている。多種多様な立場の方に働きかけもしており、納涼祭や避難訓練、家族会、医師を講師に招いての勉強会などの行事を活用しながら開催している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 訪庁や会議時及び電話等にて信頼関係が図られています。	
			(外部評価) 生活福祉・身体障害・高齢福祉など、様々な分野で市との連携は密に行われている。また、市職員の実習受け入れも数年にわたり行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 全職員で身体拘束をしないケアに取り組んでいますが、引き続き研修会への参加やミーティングで話し合っています。どうしても時は、納得の上同意して頂いています。	
			(外部評価) 新人職員は先輩職員の姿勢からも身体拘束を行わないケアを学ぶ事ができている。職員は穏やかな声かけに配慮し、安全の確保から必要最低限の範囲で、玄関施錠は行っているが、その人らしい自由な暮らしを支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 全員が分かって実行されていますが、ミーティングや研修等にて認識を図っています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 現在は、制度の活用を必要とし、他のユニットに一人おります。 研修会でも勉強はしています。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約・解約の時は、利用者やその家族等には、必ず十分な説明を行い、理解を得た上で行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 十分に話し合い、問題が発生しないように努力しています。  (外部評価) 気さくに話しができる雰囲気づくりを心掛け、面会の際には職員から声かけを必ず行なっている。些細な意見や感想でも家族から聞いた言葉は大切に、会議で伝達したり申し送りノートを用いて各ユニットへ通達するなど、職員間で情報共有を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月1回のリーダー会やミーティング等で実施されている。  (外部評価) 月1回行われるリーダー会に管理者も必ず参加している。日々の業務の中で職員から出た意見や要望は、ユニットリーダーから副管理者や管理者へ伝えられ、検討した結果を職員にも報告している。定年退職した元職員がボランティアで毎日のように訪問し、職員の良き相談役となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 研修や勉強会、役職の起用、特別手当及び昇給で感じられる。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修の案内を掲示することにより、職員が積極的に研修参加に取り組んでいる。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 少しではあるが、図られている。	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 職員は五感を生かし、利用者の状態をすばやくキャッチしています。 日頃からコミュニケーションをとっています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 面会に来られた時に、家族とは話し合いができています。 介護記録の開示も心掛けている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 職員同士で話し合い、対応をしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 年長者を敬い、本人の力が発揮できる機会を作る事により、共に暮らす関係を築いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 各々家族来所時には、近況を話し合い、利用者を共に支え合う関係を分って頂けると思います。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 時々昔話や身内などの話しをして、懐かしがって頂きます。	
			(外部評価) 2週間に1回、美容師の訪問があり希望する利用者は利用している。日帰り旅行に合わせて、墓参りや、遠方の親族に会いに行くなど個別の対応をしている。介護タクシーを活用したり、家族へ働きかけて外出を促すなど、積極的に関係が途切れない支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の相性や関係を把握し、職員は公平平等に接している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 契約が終了して、更に関わりが必要な方がいない。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者との日々の関わりの中で聞き取ったり、本人からの直接の訴えなど、その時々思いや意向の把握に努めている。	
			(外部評価) 利用者との何気ない会話や関わりの中で知り得た希望や意向を申し送りノートに記録し、職員全員が情報を共有できるように工夫している。意思表示が困難な場合でも、表情や様子から察知できるように、注意を払っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 全員が本人と関わりながら、更なる情報を増やすよう努力しています。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日々の関わり・声掛け・話の中で、本人の心身状態・有する力等を職員各自の気づきを大切に、共有することで利用者の全体像の把握に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 必要に応じカンファレンスを行い、意見交換をし、介護計画を作成、家族に説明承認の上行っている。	
			(外部評価) 面会時等に家族の意向を確認し、担当者を中心にユニットの職員全員で話し合いながら介護計画を作成している。毎月行われるカンファレンスには管理者も参加している。6か月に1回は計画を作成し直し、利用者の状況に応じたケアが提供できるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) ケース記録を書く事により、1日の様子を把握できる状態になっているが、更に記録内容が参考になるように努めている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 要望に対応できている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 運営推進会議に民生委員・町内会長さんの出席が得られて、理解を深めて頂いております。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 本人及び家族等の希望を大切に、納得を得られた かかりつけ医と連携して、適切な医療を受けられるよ うに支援している。 異変時には、すぐに対応できる体制をとっている。</p> <p>(外部評価) 利用者や家族の希望する医療機関を受診できるよう支 援を行っている。協力医療機関の往診が2週間に1回 あり健康管理に留意している。急変時に備え協力医療 機関とは24時間連携がとれる体制が築かれている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 利用者の日常生活の情報を伝え、相談し、健康と医療 管理を支援している。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 利用者に対して協働及び連携は図れている。 入院時は、可能な限り病院を訪問し、本人の状態を把 握し、伝達するようにしている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 施設長より方針について聞いている。 9/17運営推進会議にて、かかりつけの医師の講話に、 利用者の家族も参加され好評です。</p> <p>(外部評価) ターミナルケアのマニュアルが作成されており、入居 時に家族に説明し同意書を得ている。外部の研修にと どまらず事業所内の研修も行い、話し合いを重ねて重 度化に向けた支援に取り組んでいる。</p>	<p>医師を運営推進会議の講師に招き、具体的な例をあげ て勉強するなど、重度化に向けての取り組みが進みつ つあるが、事業所で支援できること、できないことを 明確にしターミナルケアにおける職員の意識の統一を 図る取り組みに期待したい。</p>



自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 看護師に連絡し、すばやい対応・処置をしている。「AED」も設置している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防署が近くで積極的及び具体的に協力して頂いております。 避難訓練・消火訓練も実施しております。  (外部評価) 消防署や地域の自主防災組織、近隣住民の協力を得ながら避難訓練を年に2回実施している。夜間フリーで対応できる職員を一名増員し、安全確保に努めている。近隣住民が迅速に集結できるよう、事業所にサイレンの設置が予定されており、しっかりとした協力体制を築いている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者一人ひとりのプライドやプライバシーを尊重した言葉掛けを常に心掛けている。 居室への出入り・更衣時・トイレ使用・入浴時等に注意をして対応をしている。  (外部評価) 利用者の尊厳やプライドを傷つけないような声かけや接し方に心掛け、個人の思いを大切にケアに取り組んでいる。年間の目標にも具体的に掲げ、ミーティングで繰り返し振り返りなど、職員の意識付けを徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者本人の意志を尊重し、本人の意志に応じて選択して頂いている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) ケアプランに基づく個々のペースで生活できるように支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 定期的に訪問美容を利用することにより、その人らしい身だしなみ・おしゃれを楽しまれている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者の好みや身体の状態に応じ、献立を考え・準備・食事の下ごしらえ等必要に応じて手伝ってもらっている。  (外部評価) 基本的なメニューは3ユニットで統一されているが、買い物や調理については、それぞれで行われている。日頃から利用者の嗜好を把握し、誕生日には希望のメニューにするなど楽しく食事できるよう取り組んでいる。また、調理や後片付けなど、できる範囲で無理のないよう職員と一緒にやっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 一汁三菜を基本とした献立作りをし、水分量も一人ひとりの状態に合わせて行っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後、職員が声掛け誘導し、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人ひとりの排泄状態に応じて、布パンツ・紙パンツ・パット・紙オムツを組み合わせ使用している。	
			(外部評価) 日中は可能な限りトイレ誘導を行い、夜間はポータブルトイレを使用するなど利用者の状況に合わせて個々に対応している。利用者の表情や様子を察知し、さりげない声かけを行い羞恥心に配慮しながら自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 繊維質の多い食物や、乳製品（牛乳・ヨーグルト）等を食べて頂いたり、腹部マッサージや温タオルでの温めなどを行っています。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 曜日・時間帯は決まっているが、湯温・湯量・習慣はできるだけ利用者の希望に添えるように配慮している。	
			(外部評価) 基本は週に2回程度、午後に入浴している。夏場は毎日シャワーを希望する利用者もおり、個別の希望に応じて時間や回数など柔軟に実施している。1人の職員が1人の利用者に対して着替えの準備から入浴介助、髪を乾かすまでの一連の行為を支援しており、安心感が持てるように精神面に配慮した対応がされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 寝つきの悪い方には、側に付き添ってお話をするなど、安眠できるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 職員は医務ノートにより、一人ひとりが使用している薬についての情報を理解・共有し、利用者の力に応じて支援している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの好みや能力に合わせて、職員が手伝いながら支援をしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 日常的に一人ひとりの希望に応じて、散歩や買物に出る等、戸外に出かけられるように支援している。	
			(外部評価) 散歩は日課になっており少人数ずつ散歩の支援を行っている。ほとんどの利用者が毎日外出している。家族との外食や、職員との買物など一人ひとりの楽しみに合わせた外出支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 利用者のお金は、事務所で管理している。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者の希望により、電話をかける支援は行っている。手紙は職員が手伝いをし、本人が書ける場合は、書いて頂いています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 草花を飾ったり、季節感のある品を飾ったりして、生活感や季節感のある暮らしを演出する工夫をしている。	
			(外部評価) 玄関前には季節の花が植えられ、来訪者を明るく出迎えてくれる。食事時にはテレビを消し、音楽を流すなど、落ち着いた雰囲気づくりがされている。古民家改修のユニットは、垣根や藤棚のある庭、木の床など、懐かしさを感じ、居心地の良く暮らせる工夫がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) リビングや廊下には、椅子やソファを配置して、それぞれの場所でリラックスできるように工夫している。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 馴染みの衣類・家具・装飾品などを自由に持ち込んで頂き、本人が居心地よい工夫をしている。	
			(外部評価) 馴染みの家具や趣味のカラオケ機材、仏壇等が持ち込まれ、個性のある過ごしやすい居室となっている。カーテンやUVネットで陽射し調節を行うなど気遣いを感じられ、居心地のよい住環境が築かれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) トイレ・脱衣場・洗面所・廊下などに手摺を設置し、安全な生活ができるように支援・工夫をしている。	